

# 京焼の里 炭山

## 炭山陶芸のあゆみ

宇治市の北端に位置する炭山は、深い緑に包まれた静かな山里。この炭山で、京焼の制作が始まったのは昭和四十一年のこと。一人の陶工が廃屋を譲り受けて陶房を開いたのが最初です。豊かな自然、それに加えて、古来より伏見・宇治と近江南部を結ぶ街道沿いにあつてつねに京文化の影響を受けていた炭山は、京焼の創作地として相応しい文化的風土を備えていました。

す物ではなく、京都で作られる焼物の総称だからです。とはいえ、平安京遷都以来千二百年の間、都として国の政治・経済・文化をリードしてきた京都。

その雅な風土の中で洗練され、都人の優れた美意識に鍛えられた京焼が、どれも完成度の高いものであることはいままでありません。

京都の焼物の歴史は宇治よりさらに古く、古墳時代の終わりには山科盆地や東山麓で須恵器の生産が始まっていたことが確認されています。ただ、現在の京焼に直接結びつく基となったのは、室町



恵まれた創作環境が認識されるにつれて新天地を求め移り住む窯元が相次



時代に明の国から伝えられた交趾釉法による色絵陶器とされています。その後、



茶の湯の発達とともに桃山時代から江戸時代にかけて栗田、五条坂、音羽などで次々と窯元が開業し、京都は焼物の一大産地に発展していききました。十七世紀半ばには野々村仁清が優雅で華麗な純日本風の色絵陶器を完成し、京焼の名声を確認。さらにその後数々の名工が出て、今日に至る京焼の興隆をもたらしました。

## 素敵な出逢いがいっぱい、

### 炭山の里

炭山では訪れる人はいつでも大歓迎。窯元を直接たずねて見学したり、気に入った作品を購入することもできます。四季折々、それぞれに美しい炭山の里。素敵な焼物、ゆたかな自然との出逢いが待っています。行楽をかねて訪ねてみて下さい。また毎年四月のはじめに宇治川桜まつりに協賛して、「炭山陶器まつり」が二日間にわたって行われます。多くの人に焼物に親しんでもらい、炭山の京焼のよさを知ってもらおうと昭和五十五年から始められたこのまつりも、いまでは

ぎ、(協)炭山陶芸の窯元十一名も昭和四十九年(1974)、協同組合を設立。昭和四十年代の後半には三十以上の窯元が炭山に拠点を構えるようになり、一大陶芸村が形成されていきました。

炭山に窯の煙が立ち登ってから約三十年。京焼は炭山の地につきり根を下ろし、宇治の地場産業に発展しつつあります。

## 京焼の伝統を受け継ぐ

京焼の伝統を受け継ぐ炭山の陶芸ですが、その作品は実に多様。それは「京焼」が一つの作り方や材料、色合いなどを指

ただ単に伝統をそのまま引き継ぐのではなく、常に斬新な創意工夫を加えて新しい美を追求してきた京焼。炭山の若い作家たちも、現代の名工を目指して、新しい京焼に挑戦しています。



すっかり宇治の春の風物詩となっています。

このほか、炭山の里では、作家たちと直接触れ合える展示即売をはじめ、陶芸教室やイベントも盛り沢山で、焼物ファンや行楽の家族つれなどで賑わっています。